

常設展示計画(原案)

【内 容】

- 1 展示内容
 - (1)現状の展示構成
 - (2)リニューアル後の展示構成

- 2 コンテンツ内容(増床部)
 - (1)導入展示
 - (2)ストーリー展示

- 3 コンテンツ内容(本館)
 - (1)シンボル展示
 - (2)探究素材展示
 - (3)見える収蔵庫

1. 展示内容

常設展示のうち、導入展示～ストーリー展示を中心としたメインとなる部分については、増床部を利用して展開します。現在の本館については、入口シンボルを設置するとともに、探求素材展示や見える収蔵庫を中心とした探求エリアとしてリニューアルします。

(1)現状の展示構成

本館		自然系			人文系		
		地学	植物	動物	考古	歴史	民俗
内容							
房総の自然誌 (1,967.07㎡)	地学展示室	◎					
	生物展示室	○	○	○			
	海洋展示室		△	◎			
	生物の分類展示室	○	○	○			
	小動物展示室			◎			
房総の歴史 (946.85㎡)					◎	◎	○
自然と人のかかわり (794.00㎡)			○	○		△	◎
体験学習室 (200.48㎡)		○	○	○	○	○	○

(2)リニューアル後の展示構成

増床部		自然系			人文系		
		地学	植物	動物	考古	歴史	民俗
内容							
導入展示		◎	△	△			
ストーリー展示	自然系と人文系による分野融合展示	○	◎	◎	○	○	◎
	通史				◎	◎	
体験展示（体験学習室）		○	○	○	○	○	○
ナビゲーション展示	千葉「旬のおもしろ情報」	時期により変動					
	千葉のミュージアムサテライト展示	時期により変動					

本館		自然系			人文系		
内容							
入口シンボル*		○			○		
探求素材展示（自然・歴史・文化）		○	○	○	○	○	○
見える収蔵庫		実現可能な改修内容を踏まえ検討					
最新情報等紹介コーナー		時期により変動					
小動物展示				◎			

【凡例】

- ◎：展示のメインとなる分野
- ：展示を構成する主要分野
- △：メイン展示を補足するための分野

* 自然系・人文系の両分野設置する

2. コンテンツ内容（増床部）

(1) 導入展示 テーマ:千葉に出会う ～海から生まれた千葉の大地～



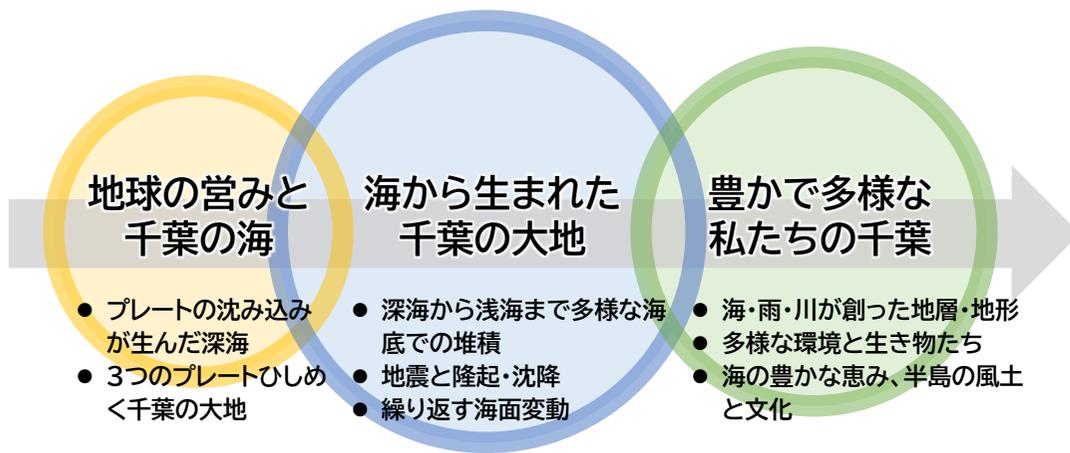
コンセプト

導入展示に引き続くストーリー展示をわかりやすくかつ魅力的に伝えるため、地球誕生から房総半島の誕生まで、海から生まれた千葉の大地の姿を地球史のスケールで紹介します。

展示のイメージ

【引用】

千葉に出会う～海から生まれた千葉の大地～



【主な展示項目の例】

- ・ 地球の誕生
- ・ 日本列島の誕生
- ・ 房総の大地の成り立ち

【引用】

流れ

展示ストーリーの全体像を体感的に伝える

- 千葉の自然・歴史、文化の特徴あるストーリーの全体像を体感してもらうことで、各展示コーナーにおける「千葉のおもしろい」の理解につなげる。

地球スケールの営みと身近な千葉をつなぐ

- 千葉の大地を形成した地球史と、身近な千葉の自然・歴史、文化がつながる構成とし、地球史の視点から千葉を捉えてもらう。

【引用】

演出

地球の営みと私たちの千葉のつながりを時を超えて一望できる演出

- 海から生まれた千葉の大地のストーリーや生命の誕生から現世の千葉までつながる生物の歴史を、地球史のスケールでわかりやすく一望できる展示を行う。
- 海から生まれた大地（半島）であることが、現在の特徴ある千葉の自然と歴史、文化につながっていることを示し、「自然・歴史・文化のストーリー展示」へとつなぐ。

想像力を育む印象的な体験を提供

- 視覚的かつ体感的な演出手法により、千葉のさまざまな姿への時間や空間（宇宙）を超えた想像力を広げてもらう。

2. コンテンツ内容（増床部）

(2)ストーリー展示 テーマ:千葉の「おもしろい」を発見する



コンセプト

房総半島の自然と千葉の歴史、文化の魅力（おもしろい）を、世界的な視点も交えて紹介し、来館者の知的好奇心と探求心を喚起します。

・誰もがわかりやすく、そして楽しい展示

博物館に初めてくる人もベテランも、子どもも大人も、誰もが楽しみながら見られる展示を目指します。また、何度も来たくなるような展示を目指します。

・千葉の魅力が伝わる展示

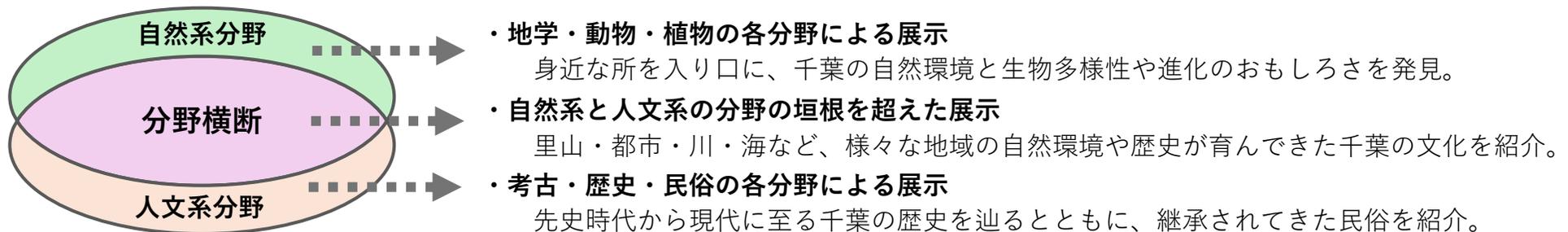
房総半島の自然環境や地理的特性、さらに先史時代から現代、そして未来に至るまでの人々の営みを、国際的な視点も交えて紹介することを目的としています。「房総らしさ（房総のアイデンティティ）」を的確に表現し、県内外からの来館者に対して、千葉の魅力を効果的に発信する展示の実現を目指します。

・知の探究・創造へと導く展示

ストーリー展示を通して来館者の知的好奇心と探求心を喚起します。自然・歴史・文化のおもしろさをもっと知るための探求素材展示へ来館者を誘います。

展示のイメージ

全体の方針として、自然系と人文系の分野横断型の展示テーマ（項目）を広く設定しつつも、分野横断がそぐわないテーマについては自然系・人文系単独分野による展示構成とします。



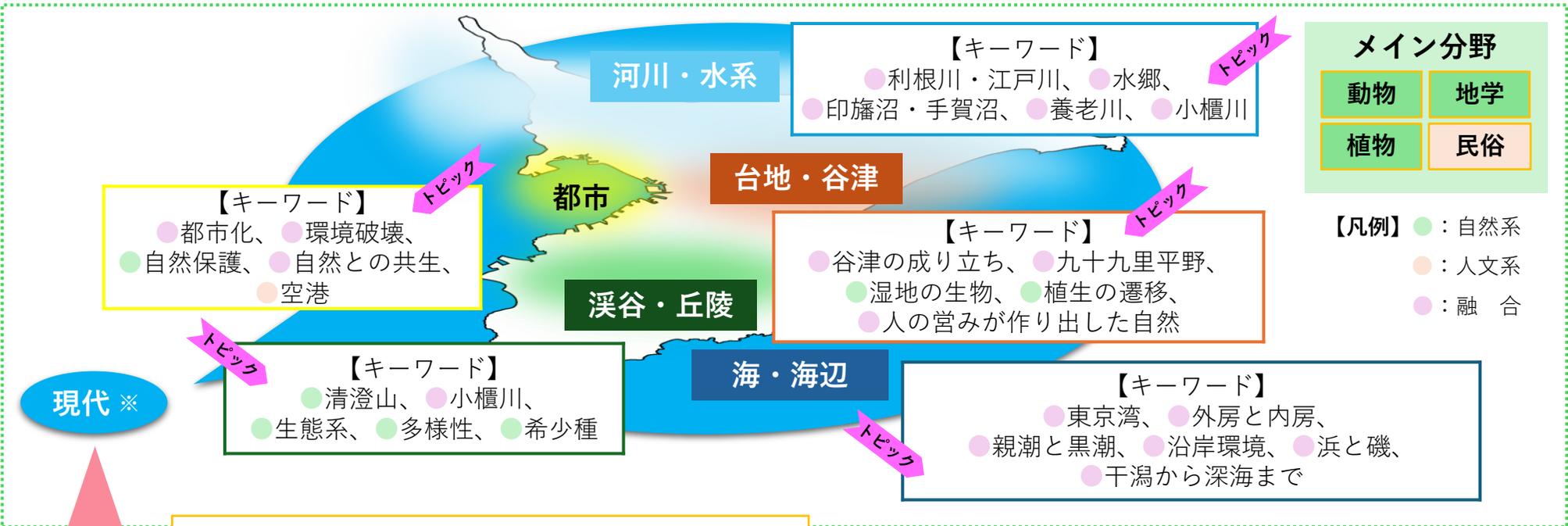
【展示の切り口】

- ・先史時代から現在に至るまでの千葉について、他地域の特徴との比較を踏まえながら解説します。
- ・現在の千葉の姿に至るまでの歴史的変遷について、主に時間軸（通史）で解説します（特に考古・歴史分野）。
- ・現在の千葉の姿について、地域やエリアごとに分けた空間軸で解説します（特に地学・植物・動物・民俗分野）。

【ストーリー展示のイメージ図】

トピック メイン分野以外の内容はトピック的に展示を展開

空間軸：地域・エリア別



※ 昭和時代周辺を境界として時間軸と空間軸の展示を分けることを想定

時間軸：通史

主な時代	【キーワード】
明治・大正・昭和	● 千葉県の誕生、● 軍都千葉、● 水運、 ● 鉄道、● 自動車、● 埋め立て ● 千葉県の自然誌研究
江戸	● 農林業、● 漁業、 ● まちのにぎわい、● 房総で花開いた学問、 ● 海外とのつながり
鎌倉・南北朝・室町・戦国	● 村落のくらし、● 城郭の世界、● 武士団、 ● 京・鎌倉とのつながり、● 戦国の争乱、 ● 他地域とのつながり
飛鳥・奈良・平安	● 交通網の発達、● 律令国家と地域、 ● 神と仏、● 文学
旧石器～古墳	● 人の営み、● 人の交流、● 自然とのつながり、 ● 縄文海進、● 貝塚と土偶、● 大交流時代、 ● 前方後円墳、● 海とのつながり

近代 ※

近世

中世

古代

原始

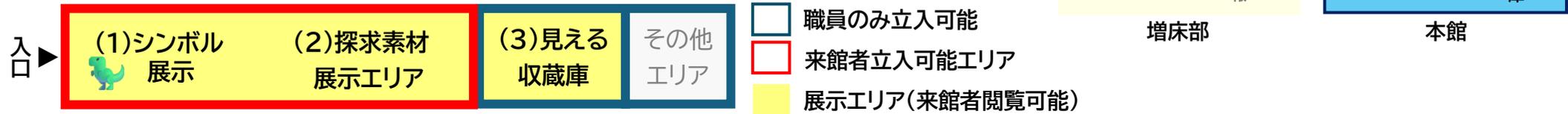
メイン分野
考古
歴史

【凡例】 ●：自然系
●：人文系
●：融合

3. コンテンツ内容（本館）

【本館における展示エリアの位置づけ】

※ 図のエリアサイズは実際の延べ床面積比とは無関係



(1) シンボル展示

コンセプト

入口付近に、博物館の学術的な専門性や博物館資料の価値を簡潔に伝える役割を担うシンボルを設置することで、来館者に感動や驚きを提供するとともに、記憶に残る博物館体験を創出します。

展示のイメージ

大型骨格標本などインパクトのある資料を博物館の外からでも視認できるように配置します。

(2) 探究素材展示 テーマ:一人ひとりの「おもしろい」を探求する

コンセプト

多分野の収蔵資料や最新研究成果により、来館者一人ひとりの探究の場を提供します。

- ・ **ストーリー展示からの誘い**
収蔵庫内をイメージさせるような、多分野かつ多種類の資料を図鑑のように並べた展示空間とし、展示物の細かな違いに気づききっかけを与えます。また、学芸員の資料の収集手法や、収蔵資料等に関連する最新の研究成果を発信するコーナーを通じて、もっと詳しく知りたい！という来館者の知的好奇心を満たします。
- ・ **気軽に体感できる博物館の裏側**
当館が収集した、様々な地域の収蔵資料を多数活用した展示をすることで、来館者が視覚的に圧倒されるような空間を目指すとともに、楽しみながら博物館における資料収集の意義や重要性を学べるようにします。

展示のイメージ

- ・ **図鑑的展示**
自然系分野は、現状の生物の分類展示室を拡張したような展示空間を目指し、地学、動物、植物・菌類に関係する資料を幅広く展示します。人文系分野は、ストーリー展示に位置づけることが難しい資料を中心に、多種類を比較することができるものを展示します。
- ・ **収集方法の解説**
採集方法や資料の整理手法など、資料の収集・保管上欠かせない技術について、トピック的な解説コーナーを設けます。
- ・ **最新研究成果・最新情報等**
収蔵資料等に関する最新の研究成果を紹介する展示を設け、千葉の多彩な「おもしろさ」を深く掘り下げることで、来館者の興味や好奇心を喚起するとともに、当館の資料収集活動の最新情報とその価値を発信するスペースも併設します。

(3) 見える収蔵庫

※ 展示（収蔵）する具体的な資料分野については、実現可能な施設改修の内容等を踏まえて検討する。

コンセプト

ガラス張り等にして中が見える収蔵庫を探究素材展示の一角に設け、気軽に博物館の裏側を体感できるようにします。

展示のイメージ

- ・ 資料劣化や安全性等の観点から展示室には常時展示できないが、ワクワク感が感じられ、来館者の目を引きやすい資料。
- ・ 展示とは異なる形態で保管されている資料（仮はく製など）。